

2017年10月23日

## 琵琶湖で大繁茂し、年間3億円をかけて対策している 外来水生植物オオバナミズキンバイ(特定外来生物)を 手賀沼で初確認。じつはすでに拡散し、爆発的増殖間近?

### 報道関係各位

美しい手賀沼を愛する市民の連合会(通称美手連、21団体)は、琵琶湖で大問題になっている外来水生植物オオバナミズキンバイ(特定外来生物)を2017年6月10日に手賀沼で発見し、8月30日に駆除しました。これにより初動駆除に成功!……と考えていましたが、9月6日、実際には手賀沼西側の両岸の広範囲に広がっていることが判明しました。ここ数年、倍々ゲームで増えている外来水生植物ナガエツルノゲイトウの群落の一部が、すでにオオバナミズキンバイに置き換わり、来年以降の爆発的増殖が心配されます。琵琶湖ではオオバナミズキンバイを中心とする外来水生植物の対策に、年間3億円を超える対策費を投じています。

美手連では各方面に警戒を呼びかけるとともに、11月15日(水)に琵琶湖の外来水生植物担当官を招いてのオオバナミズキンバイ勉強会、11月16日(木)に外来水生植物駆除を計画しています(勉強会と駆除については別紙参照)。各報道機関におかれましては、この件につきご取材いただき、広く周知していただけますようお願い申し上げます。

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 会長 八鍬雅子

<この件に関するお問合せ先> 美しい手賀沼を愛する市民の連合会  
担当:半沢 ☎090-7243-6720 メール [fukuchang23@yahoo.co.jp](mailto:fukuchang23@yahoo.co.jp)



(写真)北千葉導水ビジターセンター前を埋め尽くし、「大陸」と化した外来水生植物。先に繁茂したナガエツルノゲイトウ群落の先端部分の多くが、オオバナミズキンバイに入れ替わっていた。

## 手賀沼におけるオオバナミズキンバイの動向

### ●2017年6月10日

美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連)会員が、手賀沼公園(我孫子市)で見慣れない植物を発見し、後日、千葉県立中央博物館によりオオバナミズキンバイと確認される。

### ●2017年8月30日

美手連が手賀沼公園のナガエツルノゲイトウ遮光駆除実験地の外来水生植物を駆除。外来生物対策では初動駆除が重要とされるが、このときオオバナミズキンバイも無事初動駆除できたと安心する。

同日、県の委託で手賀沼の外来水生植物を調査していた環境コンサル会社が、我孫子市若松の前に設置された水草復元実験地でオオバナミズキンバイを確認。



手賀沼公園前に張った遮光シートから生えだしたナガエツルノゲイトウ群落



ナガエツルノゲイトウとは違う植物はオオバナミズキンバイと確認された

### ●2017年9月6日

県が実施したハス駆除を美手連が見学。その際、8月30日にオオバナミズキンバイが確認された我孫子市若松前を調査したところ、大繁茂しているナガエツルノゲイトウに混じり、オオバナミズキンバイが無数に繁茂、流着しているのを確認。引き続き、手賀沼の西側(上沼)全体の沼岸を調査したところ、沼岸の多くの場所でナガエツルノゲイトウ群落の先端がオオバナミズキンバイに置き換わっていることがわかる(ニュースリリースの導水ビジターセンター前の写真もこの日のもの)。



こんな形でいたるところに流着していた



オオバナミズキンバイ

ナガエツルノゲイトウ群落の先端がこのようにオオバナミズキンバイに置き換わっている

## オオバナミズキンバイとは

### ✂ オオバナミズキンバイという植物

- ・ 原産国/ 南米、北米南部
- ・ 分類/アカバナ科チョウジタデ属 多年草
- ・ 外来生物法により厳しい規制のかかる「特定外来生物」に指定されている。
- ・ 国内における確認事例/
  - 2005(平成17年) 和歌山県のため池で確認。兵庫県でも確認。
  - 2009年(平成21年) 滋賀県守山市赤野井湾で確認。鹿児島でも確認。

### ✂ オオバナミズキンバイの侵略的特性(厄介さ)

- ・ 高い生育密度～水面だけでなく水中にも密生する。
- ・ きわめて速い成長速度～1日3cm、1ヵ月で1m程度。面として拡大していく。
- ・ 高い分散能力～茎や葉の断片からも発根・再生が可能。さらに種子によっても分散。
- ・ 陸上への拡大、陸上でも生育～水際の水田にも匍匐茎を伸ばして侵入する。高水位時の漂着固体や駆除後の仮置き個体も陸域に定着する。
- ・ 高い耐乾性、耐熱性～仮置きしても枯れない、焚火跡からも発芽。
- ・ 抽水植物の生育阻害～ヨシやガマの枯死や発芽遅延? 他の植物を圧して丈高く生育するため、遮光により他の植物が枯れてしまう。厄介者のナガエツルノゲイトウさえ駆逐する強さ。

### ✂ オオバナミズキンバイによる悪影響

- ・ 高い分布拡大能力により、急速に分布域を拡大する。ちなみに、琵琶湖での生育エリアは2014年度末で4万6300㎡だったが、2015年末には20万㎡まで拡大している。滋賀県では2016年度に計3億3300万円の予算をつけて対策を行った。
- ・ 琵琶湖では岸沿いの水面を広い範囲で覆い、船舶の航行障害や漁具への絡みつきなどの被害が発生している。さらに、水質や水産資源への悪影響、水田への拡大、湖畔の植生への影響、河川を通じた下流域への流出などが心配される。
- ・ 手賀沼では大雨時の流出などによる洪水と、水田における稲との混生・米の収量の減少などが今後最も懸念される点。

### 参考文献/

中井克樹氏『琵琶湖における侵略的外来水生植物問題の経緯と現状:対策協議会及び滋賀県の取組』(2017年8月24日、「水陸両生の侵略的外来植物の管理に関するワークショップ」(滋賀県立琵琶湖博物館ホール)で発表『オオバナミズキンバイ駆除しても際限なく 琵琶湖に繁茂』(京都新聞2017年1月17日)  
滋賀県ホームページ『侵略的外来水生植物(オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウなど)への対策』  
環境省ホームページ『特定外来生物の解説』